

基本目標3 「潤い・快適・活力」のにぎわいのまち

分野別政策10 にぎわいと活力を創造する地域産業の振興

施策 No. 33 観光の振興

10年後のめざす姿 河内長野の魅力を最大限に活かすとともに、おもてなしの心を持って観光客を受け入れる態勢を整備する等、観光の振興を図ることにより、交流人口が増加し、地域の人と訪れる人がふれあい、にぎわいが創出され、経済の活性化にも寄与しています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値(H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「観光事業」に関する市民満足度	5.1	%	目標値	5.7	6.3			8.0	10.0	→
			実績値	5.5						
2 観光入込客数	987	千人	目標値	1,027	1,005			1,051	1,076	→
			実績値	990						
3 観光ボランティア数	194	人	目標値	170	176			193	214	○
			実績値	170						

総合評価	住みよさ指標の状況
C	<p>観光入込客数は、本市の観光魅力をメディアやイベント、ホームページ等で発信した結果、目標値は若干下回ったが、微増した。</p> <p>観光ボランティアは、観光施設において、本市を訪れた観光客に対しガイドを実施しており、分かりやすく丁寧なガイドを実施し、更なるサービス向上を図るべく、人材育成に注力する。</p> <p>効果的なPRを実施し、交流人口の拡大を図ることで、地場産業の活性化に繋がり、地域が潤い、ひいては市民満足度が向上する。</p>
施策を構成する事業の状況	
<p>自然公園施設管理事業の推進により、近年のアウトドアブームが相乗効果となり、岩湧山への登山やダイヤモンドトレールのハイキングなど、自然公園施設の利用者は増加傾向にあり、交流人口の拡大に寄与した。</p> <p>奥河内戦略や観光振興事業を推進することで、本市の観光魅力を発信し、イベント等の実施により交流人口の拡大を図っている。</p>	

これまでの取り組み	<p>各イベント等で「奥河内」のブランドイメージを展開してきた結果、認知度は市外ではまだまだ低いものの、市内では8割を超えている。また、四季に応じたイベントやPRを展開し、本市の観光資源のPRに努め、交流人口の拡大を通じた市内活性化に取り組んできた。</p>
課題 (めざす姿との差)	<p>これまでの単なるイベントやPRを漫然と実施するのではなく、各イベント等の内容を精査しながら、事業の効率化と、より効果的なPRが実施できるよう、運営手法などの見直しを図っていく必要がある。また、本市の特徴を生かした新たなツアー商品の開発を促したり、商工関係者とも連携して、お土産品や特産品の開発など、本市へ来訪してもらうきっかけづくりと市内での消費を促進するシステムを構築することが今後の課題である。そのためには、関係者が横断的に連携して取り組む必要があり、観光振興事業の担い手である観光協会の組織強化が必要である。</p>
今後の方向性	<p>観光振興計画を策定して、抜本的に観光振興の方向性を整理し、業務の効率化と、経費を抑えながらより効果的な施策展開が図れる手法の確立をめざすとともに、更なる交流人口の拡大と観光協会の組織強化を進め、地域経済の活性化を図る。</p>